

2. ボランティアウェイティングペリオド (VWP 自主的待機期間) を考える

初回種付けをいつから始めるかということはどう決定すべきでしょうか？この答えは、誰も正確には答えることができないと思います。あえて、答えるならば、「Depend On (場合による、それぞれ)」というところだと思います。なぜ、Depend On なのでしょう？例を見ながらちょっと考えてみたいと思います。

A農場の場合

DIM	Br Elig	Bred	Pct	Pg Elig	Preg	Pct	Aborts
50	866	424	49	861	154	18	10
71	691	431	62	690	168	24	9
92	518	346	67	517	116	22	7
113	377	228	60	374	80	21	8

(DIM=搾乳日数：BrElig=発情を見つけ種付けを期待される頭数：Bred=実際に種付けされた頭数：Pct=%：PgElig=受胎が期待される頭数（基本的にはBrEligと同じですが、日数の関係で少しずれがでます。）Preg=実際に受胎した頭数：Pct=%：Aborts=流産数)

ある農場の、過去3年間の妊娠率を見ています。DIM50は、40-60日の範囲を示しています。この農場の場合、搾乳日数(DIM)40-60日で授精された頭数は、424頭で種付けを期待された866頭のうち49%が授精されています。そのうちの154頭が受胎したということで、この時の妊娠率が18%（受胎率は $154/424=36.3\%$ ）ということになります。この40-60日の間に妊娠した154頭のうち、のちに流産が確認された牛が10頭いたこととなります。このDIM50日レベルでの妊娠率あるいは受胎率の成績、あるいはその後の数字の推移との比較がこのVWP決定の判断材料になると思います。

この50-113日(40-123)間の妊娠率は21.2%、受胎率は36.2%となりました。

それでは、この農場の過去のVWPを一周期遅らせて、DIM70日(60-80)の妊娠率と受胎率を見てみましょう。

DIM	Br Elig	Bred	Pct	Pg Elig	Preg	Pct	Aborts
70	698	445	64	697	172	25	9
91	520	350	67	519	113	22	7
112	386	235	61	383	84	22	8

見たとおり、妊娠率は 23%と 1.8%改善していますが、受胎率は 35.8%とほとんど変化していません。 それでは、もう少し VWP を早めてみるとどうなるでしょう？

DIM	Br Elig	Bred	Pct	Pg Elig	Preg	Pct	Aborts
40	871	219	25	868	80	9	7
61	783	470	60	780	168	22	11
82	602	406	67	601	159	26	6
103	431	272	63	429	81	19	11
124	333	204	61	331	76	23	4

妊娠率は 9%と低下していますが、これは発情の発見率(25%)が大きく低下していることに起因していて、受胎率は、 $80/219=36.5\%$ と変化はありません。(尤も、DIM30 日台の授精は数頭しかおらず、それらはすべて不受胎でした)

DIM50 の牛と単純に比較はできませんが、この DIM40 と DIM70 との数字を見る限りこの農場の VWP を遅らせる理由は見つかりません。

それでは、それですべて OK でしょうか？ 次号で別の例も見ながら、もう少し詳しく考察してみたいと思います。

黒 崎